

令和8年度 函館市 医療・介護・障がい福祉
連携多職種研修会
～医療関係者向け研修会～

『退院後、施設でこんな生活をしています』

介護医療院 竹田病院
相談員 中山 勇



介護医療院 竹田病院
相談員 中山 勇(なかやま いさむ)です

■ 経歴

恵庭南高校(体育科)卒業→札幌社会福祉専門学校卒業(令和7年開校)→

特別養護老人ホーム札幌慈啓会(介護職員)→

七飯有隣会(介護職員→介護支援専門員→相談員)

■ 私はこんな人です

・函館在住 3姉妹の次男

・できるだけ「断らない相談」を心掛けています

■ 趣味

・サーフィン

・バイク(エンデュロレース)

■ こんな時はぜひご相談ください

・医療処置があり受け入れ先に困っている(経鼻になって施設に戻れない、、、など)

・長期療養先を探している

・ご家族が介護で疲れている

「とりあえず相談」でも大丈夫です。

■ ひとこと

介護医療院はまだ知られていない部分も多いですが、困ったときに思い出してもらえる存在になれたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いたします。

■ 連絡先

介護医療院 竹田病院 函館市元町 29-21

TEL:0138-26-5812

FAX:0138-22-2785

本日の内容

- ① 介護医療院とは
- ② 竹田病院の実際
- ③ 多職種連携で感じるすれ違い
- ④ 相互理解のために意識していること

介護医療院とは



介護医療院とは

- ▶ 医療と生活の両方を支える場所
- ▶ 長期療養・看取りにも対応
- ▶ 医療依存度の高い方の生活の場

竹田病院の現状

- ▶ 平均介護度 4.8
- ▶ 60床中52名が経管栄養
- ▶ ほとんどの方が寝たきり
- ▶ 歩行器使用は1名のみ

医療体制の特徴

- ▶ 医師常勤
- ▶ 24時間看護体制
- ▶ 1階クリニックですぐ対応可能
- ▶ 夜間対応可能

介護医療院が必要とされるケース

- ▶ 喀痰吸引が頻回
- ▶ インスリン管理が必要
- ▶ 夜間の医療対応が必要
- ▶ 医療依存度が高く施設継続困難

実体験から感じたこと

- ▶ 輸血が必要な利用者様
- ▶ 施設継続が困難に
- ▶ 家族・現場の板挟み
- ▶ 介護医療院という選択肢の重要性

多職種連携でのすれ違い①

- ▶ 状態がまだ安定していない
- ▶ 発熱・状態変動が続いている
- ▶ 点滴調整など医療処置が頻回

多職種連携でのすれ違い②

- ▶ 逆にADLが高すぎるケース
- ▶ 活動性が高い
- ▶ 環境が本人に合わない可能性

実際に意識していること①

- ▶ できない理由を具体的に伝える
- ▶ ミトン＝即NGではない
- ▶ 自己抜管リスクを評価

竹田病院での工夫

- ▶ 見守り専用部屋を設置
- ▶ 滴下中は職員が見守り
- ▶ 条件次第で受け入れ可能

サマリーで助かる情報

- ▶ “念のためミトン着用”などの記載
- ▶ 自己抜管リスクの程度
- ▶ 状態変化の経過

実際に意識していること②

- ▶ 早めの相談
- ▶ 調整段階から関わる
- ▶ 別の選択肢も一緒に考える

待機中の調整

- ▶ 毎月1～2床程度ベッドが動く
- ▶ ワンクッション入院の調整
- ▶ 定期的に状況確認

状態変化でつながるケース

- ▶ 経口→経管へ変化
- ▶ 受け入れ枠が変わる
- ▶ 結果として早期転院につながる場合も

まとめ

- ▶ 介護医療院は“医療＋生活”を支える場
- ▶ 相互理解が連携を支える
- ▶ “ダメ元でも相談してほしい”

ありがとうございました

本日の内容が日々の連携のヒントになれば幸いです